

STATEMENTS 213
2018

行動するシンクタンク
一般財団法人 下関21世紀協会
Shimonoseki 21st Century Association

思索の人として行動し、行動の人として思索せよ
アンリ・ベルクソン (Henri Bergson) [1859 ~ 1941] フランスの哲学者

人が働きやすい職場、働きやすい街

一般財団法人下関21世紀協会 理事 古田 妙子

最近、何処に行っても耳にするのが、人手不足の悩みです。私は、今の仕事に就いて22年になりますが、人手不足はここ5年前後で急加速しているように思います。募集を出してもなかなか応募が来ない、従業員が辞めてしまう、など…。アベノミクスによって就業者数も雇用者数も増えているはずなのに、人手不足が続いてしまっているのには、労働人口自体の減少、有効求人倍率の高さ、技能を持った人間の不足、低価格競争で人件費が削られてしまうといったことが原因だと言われています。

人員を補強したいのに集まらないから、今いる従業員の負担が増え、仕事がついと感じ辞めてしまう。企業側としても、仕事があっても従業員が足りないから受注できないというのが現状です。

この、負のスパイラルからどうやって抜け出すかが日々の課題となっています。

まずは、今いる社員がどれだけ楽しい気持ちで仕事に取り組めるか、個々が高い目標をもって、やりがいを感じられるかが大切だと思います。その為には、経営者と従業員のコミュニケーションと信頼関係が必要不可欠であると考えます。もちろん従業員同士のコミュニケーションも大切です。経営者が全て指示を出すのではなく、従業員一人一人が今何が必要であるかを考え行動に移すこと、従業員同士で話し合い協力し合うことで、個々ができることも増えていきます。私は、従業員が何か失敗してしまった時は、叱ることよりも先に正直に報告してくれた事を褒めるようにしています。その後失敗の原因は何か、その失敗をどうしたらカバーできるかを話し合います。失敗は誰にでもあります。また、その失敗から学べることもたくさんあります。その時々に対処していくかで、先々が変わっていくと思います。経営者と従業員と一緒に成長していけることが私の理想です。

また、最近経営者セミナーに参加する機会が増え、勉強させていただいています。

その中で、女性が働きやすい職場は男性も働きやすい職場であるということに共感しました。女性ならではの気付きや感性を活かせる場面というのは仕事の上でも多々あります。例えば、コミュニケーション力や情報発信力などは男性より優れているかもしれません。逆に、ITスキル活用能力などは男性の方が優れているかもしれません。男性と女性がしっかりと情報を共有できる仕組みをつくり、一緒に考えていくことでよりいいものが生まれるのではないかと思います。さらには、お互いの能力を認め合えることで、自身の存在価値

を感じられ、やる気にも繋がっていくのではないかと思います。とは言っても、まだまだ女性が家庭と仕事を両立させながら、男性と対等に仕事をする環境が整っていないのが現状だと思います。まずは、女性が負い目を感じることなく休みがとりやすい環境づくりや就業時間の見直しを、経営者側が考え実施していくこと。魅力ある企業にしていく為に変わることと努力を惜しまないことが重要であると考えます。



そんな中、最近 AI (Artificial Intelligence / 人工知能) についてのニュースをよく耳にします。10年後 AI によって人手不足が解消されるかもと…、すなわち人間の手がいらなくなる時代が来るということです。それはそれで、私は少し不安を覚えます。もちろん全ての職業でそうなるわけではないと思いますが、この先 AI が進化すれば、至る所で AI が活躍することでしょう。古い考え方もかもしれませんが、私は人と人の心の繋がりがこそが一番大切なのではないかと思っています。人と人の繋がり、心の部分でまだまだ企業を元気に、そして下関の街が元気になれるのではと思っています。私は、小学生と保育園の子供がいますが、将来大きくなった時に下関で仕事がしたい、下関に残りたいと思ってほしいと思っています。さらには、やりがいを感じられる仕事に就いてくれれば、これほど嬉しいことはありません。その為に今私にできることは、下関を盛り上げていくことだと思っています。

下関21世紀協会に入会させていただき、沢山の方と出逢う機会をいただきました。皆さんのパワーをいただきながら、これからも地元下関が元気になるために、尽力していきたいと思っています。